

校門前看板のリニューアルについて

副校長 堀江 嘉明

現在の校門前看板は平成14年度『学校要覧』にはすでに設置されていることが確認できますので、少なくとも設置は最短に見積もっても20年前のこととなります。その間、『病気をなおしながら学べる学校』と記載されている現在の看板もずいぶん老朽化しました。それと時を同じく、行永分校の特別支援教育、児童・生徒をとりまく状況も大きく変わりました。そのような経緯をふまえ、校門前看板のリニューアルを企画しました。

令和3年度にリニューアルの構想が出されました。令和4年度の1学期の学習の一環として小学部、中学部の各学級で児童・生徒が手形・足形を作成しました。一人ひとりが白画用紙の上に、絵具、または墨で形を押して、手形・足形を作成し、その画用紙を業者へ持ち込んで、レイアウトを確認し、看板の作成の運びとなりました。新しい正門前看板は縦1メートル、横4メートルという巨大なものとなりました。

現時点の行永分校在籍の児童・生徒数は小学部（小学校に相当）は7名、中学部（中学校に相当）は3名、合計10名となります。在籍児童・生徒全員の一人ひとりの「躍動感」を手形や足形で示し、また、隣接の京都府立舞鶴こども療育センターや国立病院機構舞鶴医療センターとの協働により、入所または入院している児童・生徒が病気や障害の困難を乗り越え、社会的自立を図る「生きる力」を育てて欲しいという願いを込めています。

令和4年10月5日の除幕式当日、山本直之校長は、看板の持つ意義について「行永分校のみんなが元気に一生懸命に頑張っている姿を、みんなの様子を見ている人々に伝える大切なものです」と述べ、看板の完成を祝いました。

続いて、中学部の生徒の保護者であるPTA会長の掛け声で、校歌をBGMにして、児童・生徒が息を合わせてひもを一斉に引っ張りました。すると、看板を包んでいた白布がスルスルと上手く上がり、見事な色彩のコントラストが映える新しい看板が露わになりました。次に児童・生徒が看板を前にして記念撮影に臨みました。最後に副校長が看板の紹介を行い、（紹介文はホームページ参照）閉会となりました。その後には名残惜しそうに、それぞれの学級で担任教師と児童・生徒が記念写真撮影等に興じる姿が見られました。

以上、今後も京都府立舞鶴支援学校行永分校は、校訓「よく学び、より鍛え、そしてよりよく挑む」の理念にもとづき、医療的ケアを必要とする児童・生徒の教育的ニーズに真摯に応え、病気や障害の困難を乗り越える『生きる力』を育むことを推進するという「決意」を示すものとして、「看板」を掲げてまいります。

